

# 改訂の序

本書の初版を2009年春に発行してから早くも4年を経過しようとしている。幸いにして、多くの若手循環器科医、循環器科をローテーション中のレジデント、さらに循環器が不得手な内科医の支持を得て、短期間ではあるが第4刷の発行まで行うことができ、大変ご好評をいただいた。おそらく本書は、循環器薬を選定するうえで、読みやすく、わかりやすく、また書籍の大きさが持ち運びに便利なサイズであったことが、その要因であったように思える。加えて、前半を「薬剤編」、後半を「疾患編」の2本立てとすることで、「薬剤について知りたい場合」、「薬剤を実際に使う場合」というように、それぞれの用途に応じて適宜活用できたことも大きなポイントであったように思える。

4年という歳月は、循環器薬の選び方・使い方において、多少なりとも変化をもたらした。特に、循環器分野は新薬の市場への参入が他の領域に比べて多く、数年前には使用できなかった薬剤も、現在では実臨床で数多く使用されているものもある。そのため、このたび改訂版を発行させていただくことにした。改訂にあたり、下記の点を主な柱とした。①新薬を追加し、使用頻度が低くなった薬剤は削除する、②厚生労働省の指針に準じ、内服薬の処方例は1回量を基準にする、③副作用の発現頻度がわかるようにする、である。「薬剤編」では、バソプレシンV<sub>2</sub>受容体拮抗薬、直接レニン阻害薬、小腸コレステロールトランスポーター阻害薬と、循環器診療で使用されることの多い糖尿病薬、高尿酸血症治療薬を新たな項目として加えた。既存の項目においても、新薬があればその記載内容を充実させた。「疾患編」では、閉塞性動脈硬化症については項目名を見直し、現在の呼称である末梢動脈疾患へと変更した。また時代のニーズに合わせ、いくつかの疾患では症例を差し替えた。

以上のように、本書は時代に即した内容となっており、さらに充実度を増した循環器薬書籍になったと自負している。初版と同様に、日常臨床においてご活用いただければ幸いである。

2013年1月

池田隆徳